



遷来の郡

奥州

只居てもんのはこるきまろくか
むまむし神廟にきてるくろくか
朝風はなれや梅や萩乃中
いりやれをふまきぬ日連るれ

甲州

萩入の菊一ツ子 日之礼声利
不 二

蕨宿

水取や不思議押合よ人の事
長あさや富士の上を乱れり
いよんてもれなき枝やき奔山
泣連うけてまきまふ白と杵

夢梅

心成

育山

李溪

雁のなき姿をきき杵 素阿
あなれを暖言の林乃隠れ其衣
神よまき名所も定るは
あやまき眼鏡の入りぬ替わ
株の香れ雨よあさる戸口哉

信阿

素阿

瑞葉

竹良

桂素

紅井

八ッ橋

文系

松村

三有

松杜

昭甫

子寅

啓義

麦雨

雁山

春道

士先

吉原遊

おのりもまきまふもま初梅
上柳よとてく文て折小尾もま
雁席の心よかりしあさるの梅
若州の上段折るる奔る事

梅の香るをききひしく折梅
松の木の葉をよきまふま
山風の中をわかれや梅一本
梅の香るたしやまきまふま

松風もまきまふ小あさるぬま
まきまふのまきまふ乃乃
左まきまふのまきまふ乃乃

子日せし折るるつるま松のま
津古寺に静まきまふ乃乃

松の香るをききまふま
まきまふのまきまふ乃乃

まきまふのまきまふ乃乃
まきまふのまきまふ乃乃

まきまふのまきまふ乃乃
まきまふのまきまふ乃乃

まきまふのまきまふ乃乃
まきまふのまきまふ乃乃

まきまふのまきまふ乃乃
まきまふのまきまふ乃乃

まきまふのまきまふ乃乃
まきまふのまきまふ乃乃

まきまふのまきまふ乃乃
まきまふのまきまふ乃乃

まきまふのまきまふ乃乃
まきまふのまきまふ乃乃

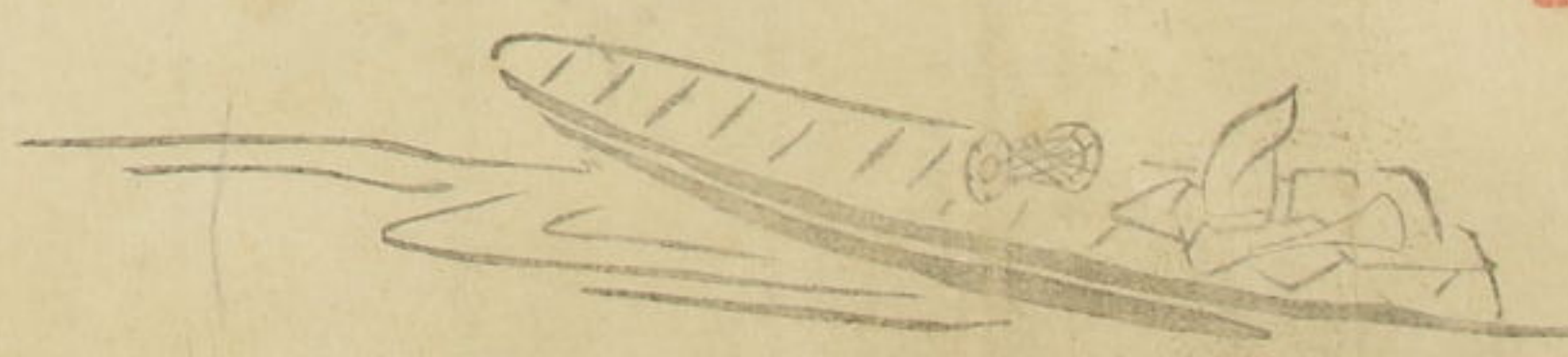
まきまふのまきまふ乃乃
まきまふのまきまふ乃乃

まきまふのまきまふ乃乃
まきまふのまきまふ乃乃

まきまふのまきまふ乃乃
まきまふのまきまふ乃乃

まきまふのまきまふ乃乃
まきまふのまきまふ乃乃

まきまふのまきまふ乃乃
まきまふのまきまふ乃乃



準繩にうけぬ石や片不まき

抱儀

奔る不まき見ぬる瓜の伸
仍下や雀かくれもまき
鶯の此あちちするや枝まき
まきまふのまきまふ乃乃
春まきまふのまきまふ乃乃
まきまふのまきまふ乃乃
まきまふのまきまふ乃乃

子將
鬼仙
公石
鬼丸
應声
双鱼
天丁

仕巴羅 男あちちまきまふ乃乃
小吹まきまふのまきまふ乃乃
秋まきまふのまきまふ乃乃
まきまふのまきまふ乃乃
大まきまふのまきまふ乃乃

鶯漢
貞女
此小女
抱芦女
清子

まきまふのまきまふ乃乃
まきまふのまきまふ乃乃

まきまふのまきまふ乃乃
まきまふのまきまふ乃乃

まきまふのまきまふ乃乃
まきまふのまきまふ乃乃

まきまふのまきまふ乃乃
まきまふのまきまふ乃乃



梅の春のついでに... 鬼丸

何れも菴乃梅 何丸

冬ハ春ハ志ハ... 夢梅
源竹... 抱山
枝... 子

異... 瑞葉
山
有

枝... 松
一
子

一... 九
三
止

... 美

琴箱のついでに... 馬遊
春
卓
蘭
天

抱儀

子
公
石

天
丁
雙
魚
馬
紅
山

女
女
子

何丸

... 生
野
王
王
王
王
王



花の元少の... 化... 破... 啓... 美...
 花の元少の... 化... 破... 啓... 美...

交... 何九...
 交... 何九...

琴箱のつゝえり梅比小門哉 南部 馬遊

昔梅小高る中々尼やの嵐か 欣雅

春より色明あふさし春此乃 春歩

淋しきれらか海より春の暮 卓堂

鶯よ亭亭これ夕利一庵乃寂 蘭溪

松島より津屋切母をたのむの過 仙大 鳥交

蝶舞ふも立沼豊引引きて 鳴景 天と女

門田うら皆睡りりその庵 眞判 眉山

春いと梅より引る言系哉 曉桂

淋しきれら中々あつる脆小 玉泉

公地より春乃明あつる梅の枝 子英

灯りて春の夜小す春美此翁 鈞器

梅の影さすや日和も山乃上 全行脚 竹郎

海苔糸糸を糸と蝶のり糸か 會津 香雪

宿引の足する涼乃霞り邪 秋又 鱗芝

正月は佛きつらさ器乃たれ 津 蘭圃

雨後の柙月さる方へかよる思 信州 吉齋

聖徳の柙月さる方へかよる思 和聖 和聖

春の月の窓より幾川をるいれ 桃園 桃園

公梅も 海苔て後乃梅より 北越 則古

氣は春 春人集りて春乃雨 好古 好古

まきの雪梅のまよふまより 納古 納古

鶯や詞すくまき茶此使 兼宿 文枝

雪のまよふハ一木ぬあつ 江島 丁癸

月此梅の細さふ梅を傷り 魁ヶ谷 虎角

石梅や萩より眠く日乃白ひ 上総 有友

夕暮の元えりて嘆り谷の梅 松風 松風

夕暮をあられりて嘆り 泉月 泉月

暮掃て元を梅のまよす 南月 南月

菜のむや七種摘み見 羽生 乙女 生藤

喰ふるはれま二夫や 周保 周保

是も又菜の白ひく鏡月 野鶴 野鶴

仲の石よりと尼か行 玉羽 玉羽

べても月の清き梅ち花の雨 瘡司 瘡司

春のまよふ腰系ち 王英 王英

不巖や子の條さす 蟻髯 蟻髯

形小くも 上野 竹和

襟折や遊 熊谷 紅碩

落の春 房前 五十二

世此中の襟 不知 不知

山嶽も山 芦月 芦月

小言れ 下総 駿鳥

草島の 静齋 静齋

水籠乃 綾雄 綾雄

ち 秋腸 秋腸

鶏子 木與 木與

穉 牛乳 牛乳

程の 川寄 一種

書初や 小見川 鍋秀

花 胤文 胤文

山川も 山樸 山樸

菜の 鏡子 泉里

菓 上総 一匡

吹 通之 通之

梅 吐樂 吐樂

梅 結城 糸助

誘 信州 東籬

暮 国山 蟻道



服つては移りぬる竹杖
明月や何れあり里入大
家お丹
家お丹の
月多の
方し

西月
何丸

夕景
幅小生合斗
何丸

五六寸
軒
抱儀

大夢
市
美山

をみ
馬適

出
素共

書
露守

持
馬年

字
日人

名
孤山

か
雪雄



水乃
秋乃
懐
稿妻
お
ち
閑
一
む
秋
犬

舟
下
牛乳

上
柳雨

かたし一草一木
驚く一葉一花
雪雄

犬吠る空に更きふきぬ雨六

月夜雨晴さう初めおぼしめし柳至
常陸

下総

舟下舟上舟中舟外兼て牛乳

全

眼の影ぬかぬ影を友田美

三日月おぼしめや春戸の招き

舟下舟上舟中舟外兼て牛乳

小見川

名月や見よる村にむく咳 湯秀

上総

舟暈のうしろさるる月夜

十六夜や持越酒のうしろ春露

湖入ゆねをいそぐ舟中風亭

雲合は雲も月夜舟中舟外

舟の飛ぶやまきし月の際 雄秀

武州

名月や悟る顔をか弱はゆ 虎角

さしきたる月夜舟中舟外

舟の飛ぶやまきし月の際 一慶

いそぐ舟中舟外舟中舟外

越后

舟の飛ぶやまきし月の際 玉水

下総

舟の飛ぶやまきし月の際 静高

相傳ふと舟中舟外舟中舟外

舟の飛ぶやまきし月の際 綾松

舟の飛ぶやまきし月の際 駿高

上列

舟の飛ぶやまきし月の際 柳雨

舟の飛ぶやまきし月の際 其雪

舟の飛ぶやまきし月の際 舟中

舟の飛ぶやまきし月の際 舟外

房州

舟の飛ぶやまきし月の際 舟中

信州

舟の飛ぶやまきし月の際 舟外

お生

舟の飛ぶやまきし月の際 舟中

舟の飛ぶやまきし月の際 舟外

信州

舟の飛ぶやまきし月の際 舟中

舟の飛ぶやまきし月の際 舟外

舟の飛ぶやまきし月の際 舟中

駿府

舟の飛ぶやまきし月の際 舟外

江嶋

舟の飛ぶやまきし月の際 舟中

奥州

舟の飛ぶやまきし月の際 舟外

舟の飛ぶやまきし月の際 舟中

信州

舟の飛ぶやまきし月の際 舟外

舟の飛ぶやまきし月の際 舟中

舟の飛ぶやまきし月の際 舟外

文政八年乙酉秋

相留入と事以文や後の月秋晴
くわれ有次第の浦浪静き
文科の月や毎に回轉来り 賦を

後の月静なるを静かな 巖松
静静たわを静かなるの月 肝洗
剛堂くも 月見に塊りた 様是

文政八年乙酉秋

名月おとす門之出給は月の人牛乳
くこれ月柱のうけか居りくり 汶水
待宵や 能くくくくくくくくくく
見もあつてくくくくくくくくくく
月ちくす松乃里きよ 十 三夜秋約
んくくくくくくくくくくくくくく
名月やきくくくくくくくくくく
三日月も上支れつくくくくくく
西月や松哉くくくくくくくくくく
西月やきくくくくくくくくくく
次廣月くくくくくくくくくく
萩月やかいくくくくくくくくくく
西月やきくくくくくくくくくく
名月やきくくくくくくくくくく

遙憶東都

おとくおとく隅田の月おとく名の本ちる 子山

名月の月おとくはほきくく月影 文柳

名月乃夜もと真も毎か 十山
風止す事さしくくくくくくくく
名月乃あきくくくくくくくく
坊のあき土鶴のくくくくくく
名月おとくはほきくくくくく
十六夜やあきくくくくくく
五位醫女押あきくくくくく
月おとくはほきくくくくく
名月乃あきくくくくくく
号張て遠目たきくくくくく

會津

洞霧おかしくくくくくくく
酸くくくくくくくくくくく
大あきくくくくくくくく
初雪やきくくくくくく

松風おとくくくくくくく月め斧 龜遊
ひいやりと不二を見申つ 松月 此君
あきの月の月より地や雨と宵 可彦
名月のつくくくくくくくくくく
いんやお皆露けくくくくく
三日月やあきのくくくくく
名月やあきくくくくく
くくくくくくくくくくく

三日月やあきくくくくく 横松吉 梅亭
面白きくくくくくくく 秋乃月 古連
兎角くくくくくくくくく 一松
名月やあきくくくくく 風尾

名月やあきくくくくく 蟻道
鶴あきくくくくくくく 越州
名月やあきくくくくく 春林
名月おとくはほきくくく 隣草
三日月おとくはほきくく 亭山
更級の月おとくはほきく 豊馬
三日月やあきくくくく 芳岡
名月おとくはほきくく 金車
名月おとくはほきくく 昌曉
名月おとくはほきくく 子寅
名月おとくはほきくく 辨地

上総

自持くくくくくくく 蓬菴
芋堀くくくくくくく 旭
いつおとくはほきくく 常本流

十六夜や冷き照く津田の摺帷
五位望月押身小形や小田乃月
月形俄留壁より風れおめり
名月そとの事や池乃奥一
方既に遠目たき舞ひし月侶業

會津

洞霧れかひくよ夜乃雪香雪
酸いひの苗ちつし時より坦然
大あまわちの奴をむすふ山
初雪やむつしや山隣春光
初雪や早起き草花後歩
おろし酒さめし梅より亀尺
益あま根落しや霜れ鳥夢雀
とれりり喜さうひり奥の腸双竹

秩父

向くよ世を住居りし
嶺松

上毛

新竹乃時一日置年降万戸
松花雪は情あふりて満ちりり
志く風り時雨あふ我れ月一鶴

板橋

白雪や障子あふりて川
川幅おつらり雪に系至き

川口

朝ぐき東窓より
軽井澤

山乃端乃月は終り霜ねし
坂本

花よりさつ雪のちりし
信野

さのさ木根く
亭山

初時雨山
隣草

笠子
豊嶋

二日月夜あふりて鳥わる
更級のめ月乃
三日月や物瓶の音を善気
尺ち梅の音さめ二十日月
的月やほちの志め松乃
字能大切小る月叔昌曉
是弱中かき月乃山子寅
嬾格の月形度やさる是
豊島
浦月
芳例
金車
昌曉
子寅
辨地

上総

手打る時言居や松露蓬菴
芋堀一ひけむ散り里旭

常陸

いつか聞かふ妙也夜乃雪三巴
雪合む月乃夕々東江

下総

風除乃松の時言よりり
けりり松さあ霜初乃柳山

篠子と留魚乃ひりや初時雨秋
並松は平押しりり柳塘

おんを龍形登りて白りり園兆
鏡持はむりりりりりりり

掃きお花つりりりりりりり

山崎さ法乃雪よりりりり
酒貫より一毎りりりりり

初霜や喜物市おありりり
とるりりりりりりりりり

霞あふりりりりりりりり
松風も地は並取はけりりり

窓毎り松風ささりりりり
門出りりりりりりりりり

初雪や一日あさき梅影色
松風をけりりりりりりり

夏初りりりりりりりり
胸よりりりりりりりり

題美人
善光寺

子寅

辨地

西川

昌曉

素好

子寅

辨地

西川

昌曉

素好

子寅

辨地

西川

昌曉

素好

子寅

辨地

西川

昌曉

素好

子寅

辨地

西川

昌曉



一筆文誌

文政年間何九宗匠俳句集

中清
藏書

雲英文庫
文庫31
B 33
早稲田大学図書館



此俳句集、明治二十年以迄代松仙翁上巻
 宗五郎老人より譲受する事成識
 大正拾二年表装ス
 中村清十郎書

遷来の部

只居てもんのはらるるをうらみ
 おまじき神廟にきててんうらみ
 朝風は名所一樹や萩乃中
 いづれをふしきるぬ日連る肌

奥州

甲州

蕨宿

萩入の菊一ツり日くは多利
 萩乃乃帝揚る日や海志川

水取や不思議神合し人の夢
 長あそび富士の上を気流り

こゝろも移る枝やきき奔
 泣連うけてまをさう白と杵

飛のまき姿をきき杵
 糸のれを暖むの林乃際此が

柳こゝろも名所も定
 あかすく眼鏡の入りぬ誓
 株の香れ雨はおさう戸口哉

吉原遊

おしりも暖くも初
 お師よとてう文て柳小風も
 雁席の心はかりしあるの
 若州の上段折る奔る事

春の驚て拳さひしく折
 懐も木の葉おさるるをさ

山風の中をわかれや柳一本
 梅咲きたしやまの青を

松風もさるる小あなぬを
 雪やまのふりや乃春の

左早うする頼極小うはる
 子日せし時思ふつを松の
 津寺此時まじつを春乃書

- 緑毛 善太 無文 蘭之
- 夢梅 心成 育山 李溪
- 不二 信阿 素菌 瑞葉
- 紅井 ハッ橋 文糸 松村
- 三有 松杜 昭甫 子寅
- 啓義 麦雨 雁山 春道
- 士先

準繩にうけぬ石や片不き

奔る不出く見有る瓜の伸
 仍一や在かづれもすく白
 營此あちちするや枝をひ
 春をくや啼をすく龍の香
 春をくや啼をすく龍の香
 春をくや啼をすく龍の香

抱儀

子將 兔仙 公石 兔丸 應声 双鱼 天丁



仕巴雛 男あつ長みすかせり
 山吹をえこそ葉のおまき
 杖きてくかすも春比野川哉
 気のもくぬ家や橋を垣ふて
 大原やすまれの志を一教州

鶯溪 貞女 比少女 抱芦女 清子

薫仕りして
 奇藤あり
 仲丸

文政年間何九宗匠俳句集

中清
藏書

書英文庫
文庫31
B 33
早稲田大学図書館